作笠四冷笑

第三十五篇

雀庵作

四自画

止服部和美

第世五編上巻

仙鶴堂梓

俤紫田舍源氏

種彦作
國貞画

俤紫田舍源氏第三十五編

虚を實に見せるは凡夫三千人に式部ひろう狩之実をひろうてうそつきまある事拙きゞ為るりと齒ぐきをあ丹吉原源氏五十四君の序に書る述懐るりその名を隠して作者浅茅の尾と記せ弁も又紅部小路のお墓の名を假しゞかりに似られども袴白粉の雪と墨染黒人に向ひて面かぶり爭頭のゆゞるべき文の きゝるの山風のあろ一節陀羅尼とよむろいちそゆく此紙のくゞ巻うろ覽るめるあるの仏陀ろうも最まゞ色ありふ尼が實を説て最に吹れん紙歎ぜ一の弋力のゆるゞ西表之娘に初編より一ひ一如く秋の夜家に松永岡安物語實盛の熊谷ろとい表ゞける色空言とうるうるそを繪る妄語の罪に沈あべ彼淺茅の尼公を語ゞ田舍源氏の供養をうのまん

天保十二年辛丑初春

柳亭種彦識

螢の巻の翌
中将の君をこそ
けどろくめとて
きこえあつれど
ひめ君のゆゑ
さーもるるちきこえ
ぞ
中略
雑あそび
雲井之丞氏仲
暇ある日ハ妹明石の
伽しに遊ぶ
あくるあれば
あ人すろ
ゆとびそ
もぐも
年月の
まつおもひ
ぞられぞむ
雑の
ろくもづく
ひとくくと
まりくくち
まもれ

梅

光

玉

油

國貞画 種彦作

偐紫田舎源氏

柳亭種彦作
歌川國貞画

三十四編の初めまで五かぐらの初巻ふろく下冊いちてふの巻とあり 三十五編上冊のすゑあハ蛍の巻をつゞり下冊のそなたの常夏あり 三十六編上ふ續き下冊おかゞや火ゑりづくふ二葉野ときも 三十七編の上ふて書きそなたとふさ巻御幸ふ法て巻ぐ巻ハ三十八編ふ書をそなさせ以上五帙ハ丑の正月ふ発兵～中ハ五十四帖紙 三十帖ふ丑ふ製ふ二帙ハ丑の正月ふ発兵～中ハ五十四帖紙 不お絵ふもさめ御発行最頁ふりさゆるそのほひくさを備て奉希ハ

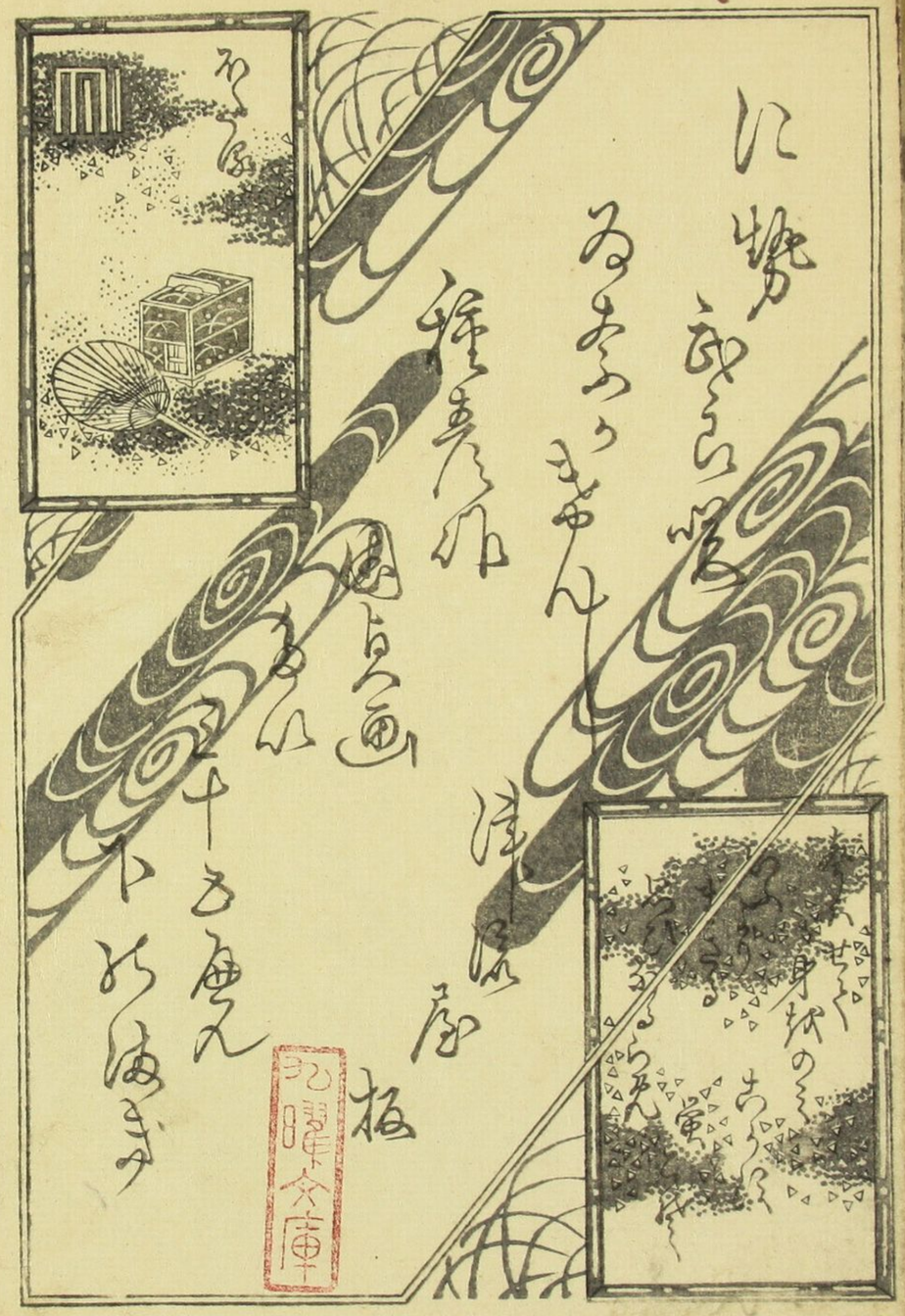
仙鶴敬白

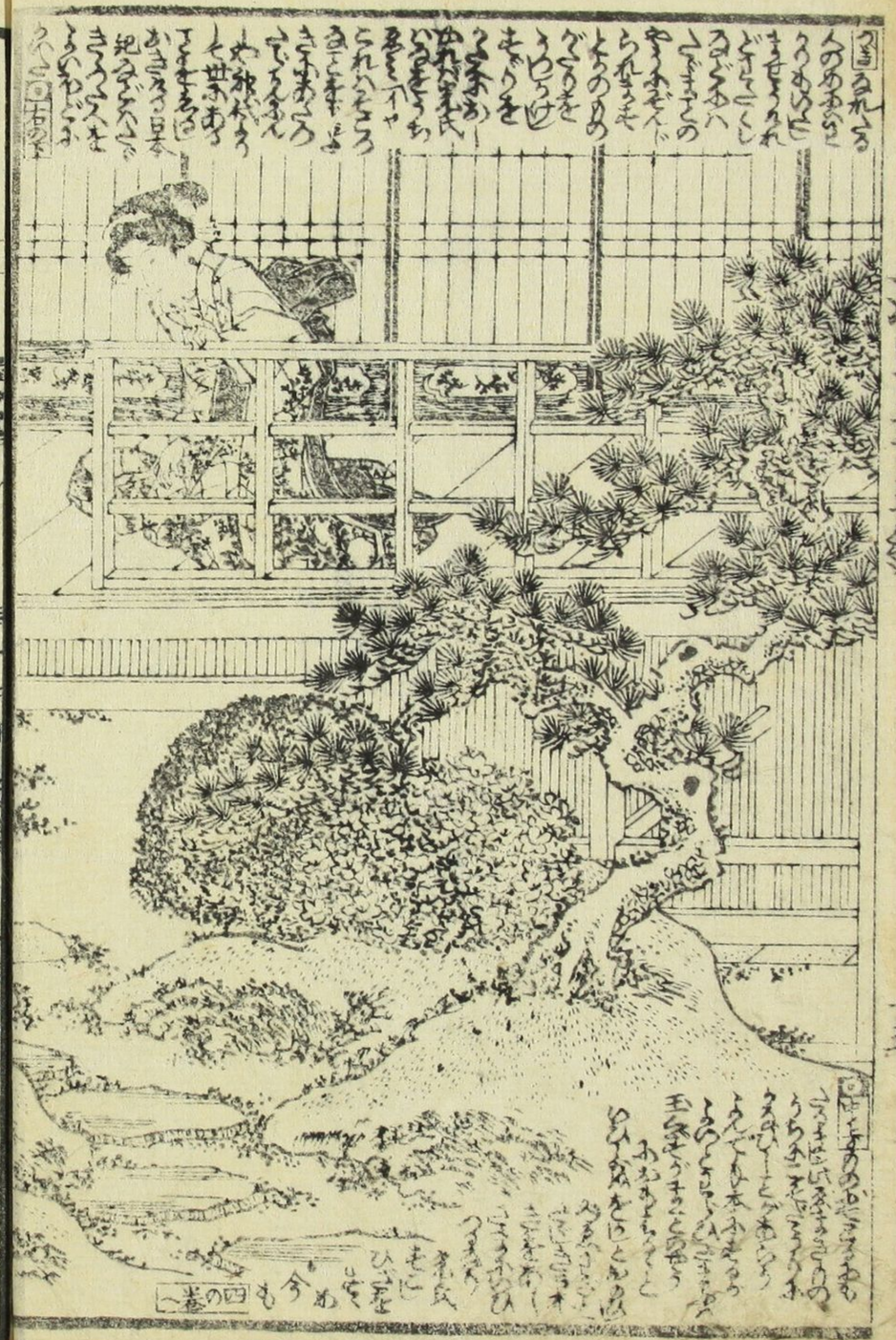
美艶仙女香 製所 南信馬町 三丁目西側 坂本氏 取次

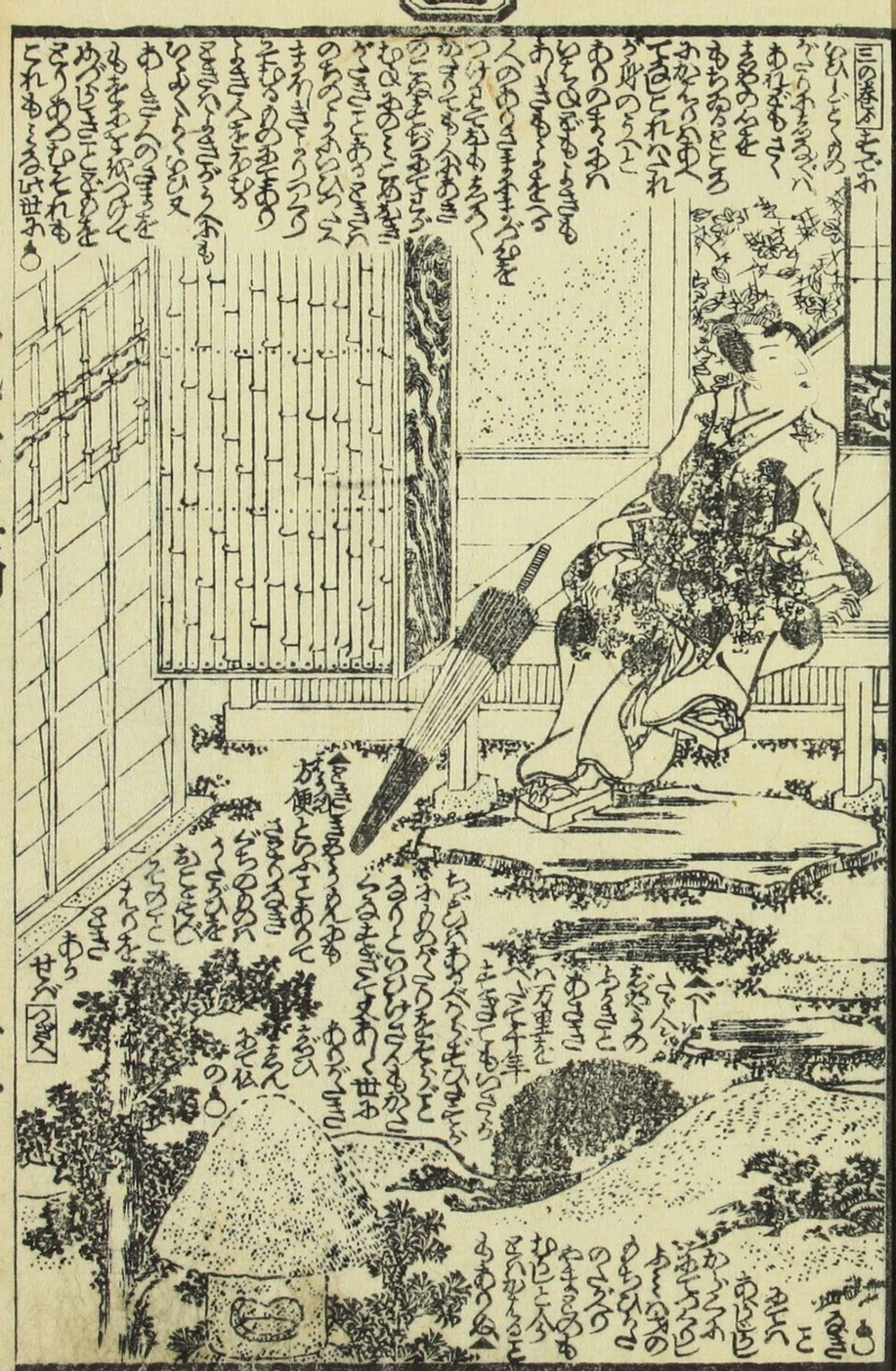
黒油美玄香

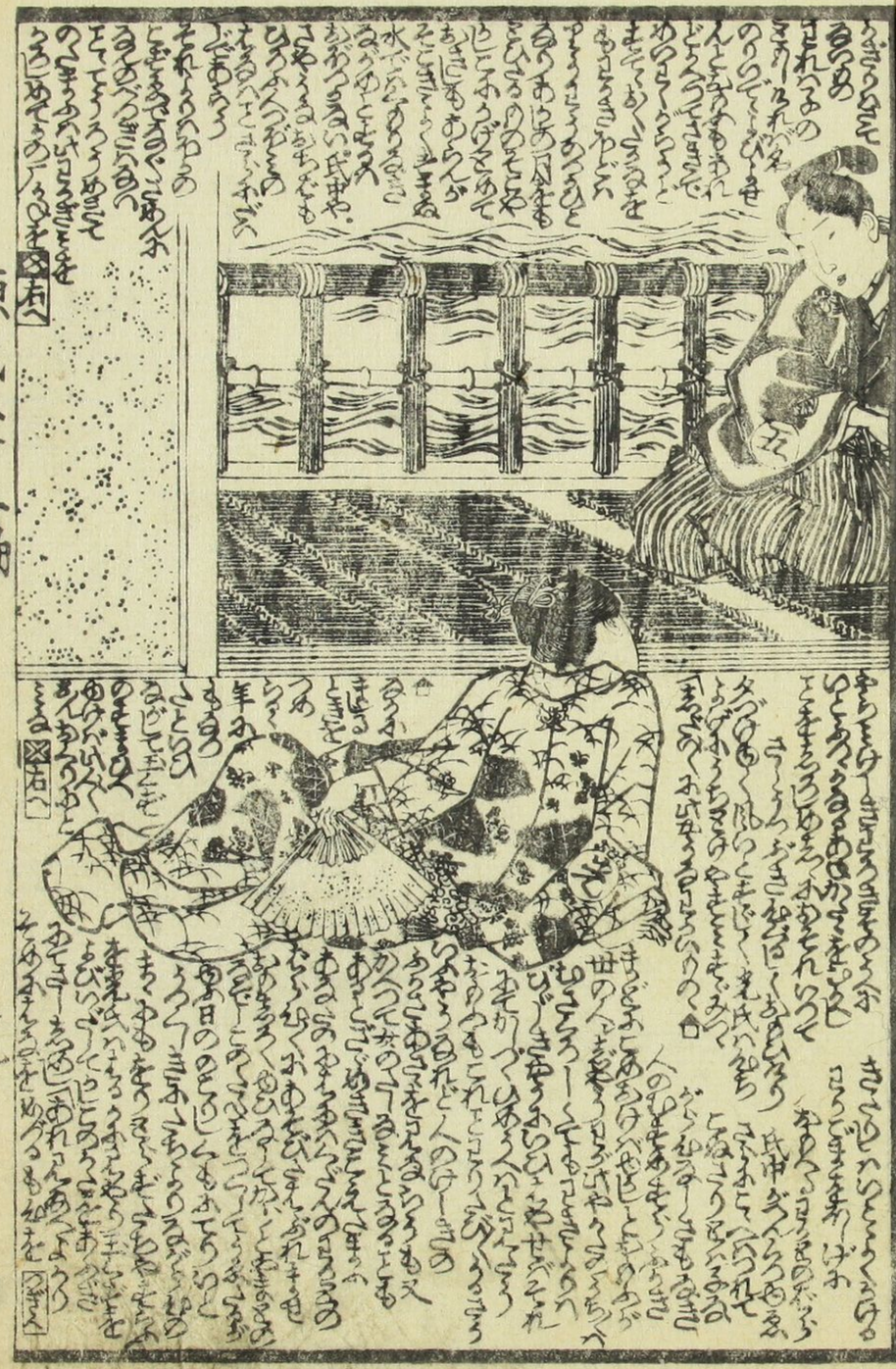
書物錦繪 扇地紙 問屋 江戸通油町 鶴屋喜右衛門

三十五編下







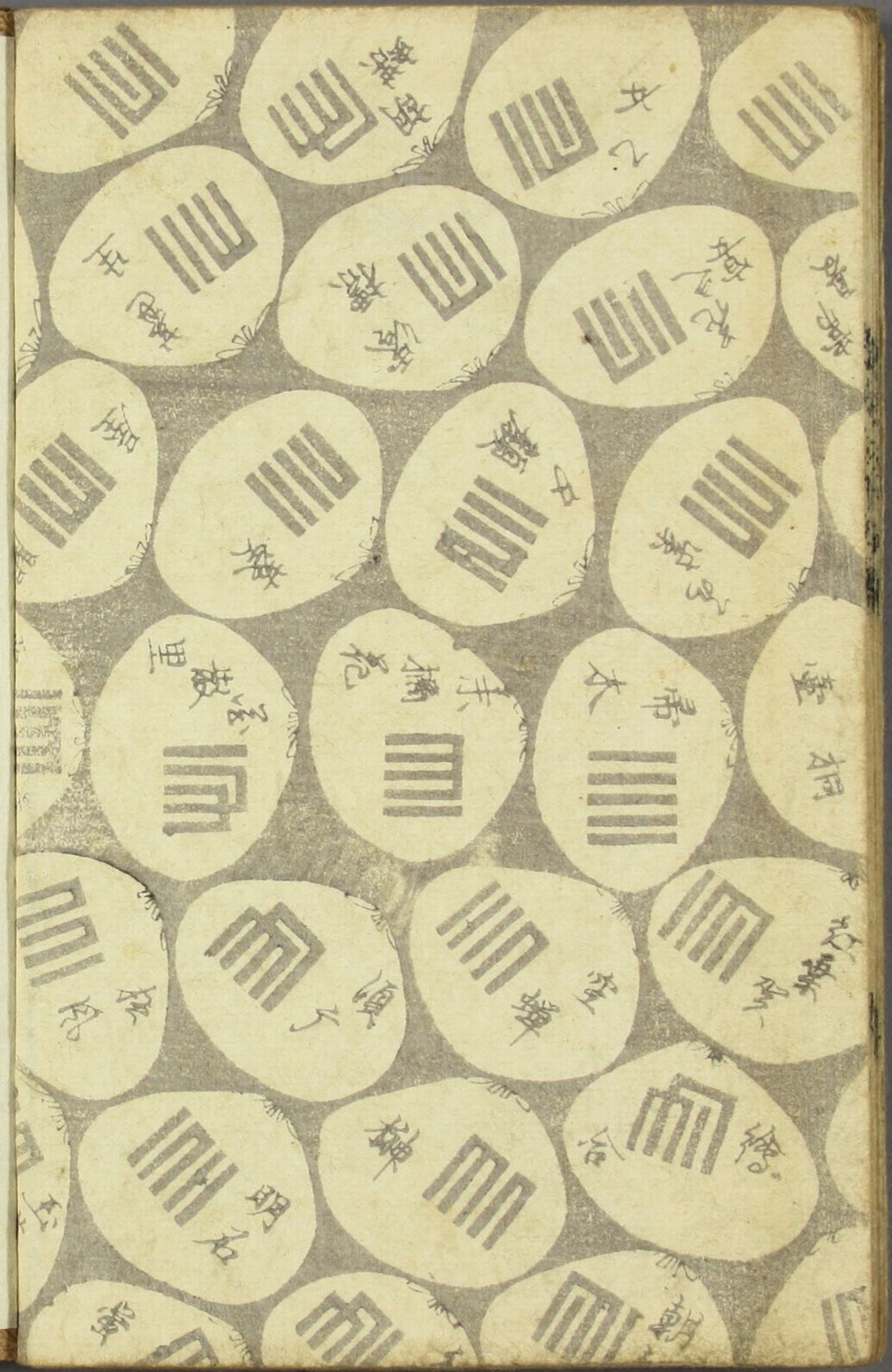


柳亭種彦作　歌川國貞画

仙鶴堂藏板目録

字寶節用千金藏　大全書状案文
源氏百人一首宝文庫　女用文章色紙染
御家正流　子供案文
柳亭隨筆　還魂紙料　初編既刻　二編近刻
田舎源氏文案のかゝり　上たゞし仕立
廿八編目録書ようちゞめて絵ごゝろ
中ごろ略ごぞんじの風流のかゝり
なり　義章もくまれいふ　おもゝかい用　教ゝ
たゞし遊び代表入
小絵ごゝろ　種彦ゆゝ書
昔咄　火桶ものゝ　貞秀画図　全三冊
同　こゝろちやんこゝろ　全三冊
同　浦島爺　全三冊
茶番のいろは　全三冊
以上先年表中　仮名近刻
昔咄　楠判官　全三冊
同　おぼろさま判官　全三冊

地本類東錦繪問屋仲間　鶴屋喜右衛門



ちりのみ